

社会福祉法人豊富台福祉会

はなえみ保育園

事業計画書

1. 運営方針

- (1) 保育所保育指針に基づき、それぞれの子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。
- (2) 保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否に係わらず、その対応について説明を行う。
- (3) 子ども達の安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う。
- (4) 定期的（3年に一度）に第三者評価を受審することで保育の質の向上を図る。
- (5) 関係機関との連携・協力を努める。
- (6) 自治会に加入し、地域の一員として積極的に活動に参加する。
- (7) 保育内容などの情報開示に努める。
- (8) 施設の運営状況や財務状況を必要に応じて、保護者の方々に説明する。
- (9) 法人として定期的（5年に一度）に外部会計監査を実施することで、より適正な経営管理、財務管理を行い、施設運営の透明性を高める。

2. 施設の詳細

| | |
|--------|---|
| 開園時間 | 7:00～19:00(土曜日は18:00まで) ・ 保育標準時間利用者の方は18:00以降は有料 ・ 保育短時間利用者の方は7:00～9:00及び17:00以降は有料 |
| 受け入れ年齢 | 生後3か月から |
| 定員 | 2号認定子ども 47名 3号認定子ども 23名 |

3. クラス編成

| 年齢 | 児童数 | 常勤保育士数 | 短時間保育士数 |
|-----|-----|--------|---------|
| 0歳児 | 6名 | 2名 | — |
| 1歳児 | 8名 | 2名 | — |
| 2歳児 | 9名 | 2名 | — |
| 3歳児 | 18名 | 2名 | |
| 4歳児 | 19名 | 1名 | |
| 5歳児 | 20名 | 1名 | |
| フリー | | 3名 | |
| 主任 | | 1名 | |
| 計 | 80名 | 14名 | 0名 |

4. 利用可能サービス

| | |
|---------------|--|
| 標準時間外 延長保育 | 対象者 保育標準時間認定利用者の方及び保育短時間認定利用者の方 保育時間 月曜日から金曜日の18:00～19:00 基本料金・・・月額2,000 円(1日も利用がなくても必要) 利用料金・・・1回 200 円 ※被生活保護世帯及び前年度分所得税非課税かつ前年度分市民税非課税世帯は無料 ※料金は芦屋市に納付 |
| 標準時間内 延長保育 | 対象者 保育短時間認定利用者の方 保育時間 17:00～18:00 利用料金(月額) 階層区分ごとの保育標準時間と保育短時間の利用者負担額の差額 ※料金は芦屋市に納付 |
| 子育て相談 | 随時受付 |

5. 保育理念

- 一人一人の子どもの最善の利益を守り、保護者の皆様と共に、心身を健やかに育む。
- 子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作りあげていく。

6. 保育の目標 (家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子どもを大切に育てる)

- 心も身体も健やかな子ども
 - 子どもが生き生きと活動できるよう、発達に応じた遊具や用具を用意する。
 - 心と体の栄養になるよう、安全な食材でおいしい給食を提供する。
- 自分らしさを発揮する子ども
 - 生活の場面においても、遊びの場面においても、子どもが自分から考えたことを表現し、行動できるように環境を構成すると共に、子どもが自分らしく、のびのびと過ごせる時間と空間を大切にする。
- 相手を思いやる子ども
 - 保育教諭は、常に子どもの気持ちを考えて接し、また、子どもが他人の気持ちを考えることができるよう援助する。
- 認め合い、協力し合う子ども
 - 子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、様々な配慮や援助の方法を考えていく。
- 豊かな感性と好奇心、探求心を持つ子ども
 - 子どもを取り巻く自然や社会の中で、子ども達の感動や驚き、好奇心や探求心を引き出し、感性の幅を広げ、質を高めていく。

7. 保育の基本方針

〈家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子どもを大切に育てるための保育〉

- (1) 保育士等は常に温かく落ち着いた態度で子どもに接し、子どものあるがままを受け入れる。
- (2) 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人一人の発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるよう保育環境を整え、子どもが自主的に遊ぶ姿を見守る。
- (3) 子ども自身が「愛されている」「認められている」「大切にされている」と感じられるように一人一人の子どもに愛情を持って寄り添う。
- (4) 小動物や植物など自然との触れ合いを通して命の大切さや豊かな感性を育てる。
- (5) 担当制による丁寧な育児を通して、生活習慣の自立を図る。
- (6) 給食は、子どもの成長に即した内容で実施し、心身の健やかな発達を支える。
- (7) 楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み、「食を営む力」の基礎を培う。
- (8) 十分な運動遊び、戸外遊びを通して全身の諸機能の調和的発達を促す。
- (9) 食事、排泄、睡眠、運動など毎日の生活リズムを整え、健康な身体の基礎をつくる。
- (10) 子どもの人格を尊重して保育することで、自分も他者も大切にできる心を育てる。
- (11) 色々な国や地域の文化に触れる経験を通して、違いに気付いたり相手を認めたりする心を育てる。

〈職員としての姿勢〉

- (1) 職員全員が子どもに関わり、よりよい人的環境になるよう心掛ける。
- (2) 一面的な見方ではなく、多方面から見つめ、子どもの理解に努める。
- (3) 年齢ごとに発達を固定的にとらえることなく、個々に合わせた発達を長いスパン（時間の幅）の中でとらえていく。
- (4) 職員間の連携を密にし、チームワークを組んで保育に取り組んでいく。
- (5) 保育について日々研鑽に努め、保育園内外の研修を計画的に実施し、保育技能の向上に努める。
- (6) 専門機関や地域の関係機関と連携し、保育の質の向上を目指す。
- (7) 一人一人の保護者の方の状況を踏まえ、信頼関係を築き共育てをすすめる。
- (8) 職員は専門性を活かし、地域の子育て支援に貢献する。
- (9) 保護者の方や子どもの個人情報の取り扱いは適正に行い、在職中はもちろん離職後も、情報の保護、秘密の保持を行う。

〈学校、地域との連携〉

- (1) 地域との交流やボランティアの受け入れは、子どもや職員にとってより豊かな経験となるよう、また、本園が地域の施設として認められるよう、計画性をもって積極的に行う。

- (2) 実習生の受け入れは、次代の保育士育成に欠かせないだけでなく、指導することによって自らの保育を客観視し自己を向上させる機会となるため、計画性を持って積極的に行う。

8. 延長保育の内容

- (1) 止むを得ない理由により、支給認定における保育時間の範囲を超えて保育を必要とする場合は、当該支給認定に係る園児に対し保育の必要な範囲内において延長保育を提供する。

9. 食事の提供

- (1) 子どもの健全な発育に必要な栄養が摂れるよう、バランスのとれた献立を工夫する。
- (2) 安全・安心な食事を提供するために、国産の食材を使用することを原則とし、納入業者に依頼する。
- (3) 安定感と温もりのある強化磁器の食器を使用する。
- (4) 楽しい雰囲気の中で食事をしながら、望ましい食生活習慣が身につくように気を配る。
 - ① 食前のうがい・手洗い
 - ② 食前・食後のあいさつ
 - ③ 正しい姿勢で食べる
 - ④ できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう
- (5) 給食内容
 - ① 主食・副食(一汁三菜・デザート)・おやつ(午前・午後)
 - ② 午後のおやつは通常、手づくりおやつを提供する。
 - ③ 夕方18:00以降に軽食を用意する。

10. 昼寝について

- 子どもの成長をうながし、心身の疲れをいやすために毎日、昼寝を行う。昼寝の時間について子ども一人一人の状況に合わせて柔軟に対応していく。

11. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時預かり事業

12. その他事業

社会福祉施設は福祉サービスを提供するだけでなく、地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。そのためには、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

- (1) ボランティア・就業体験受け入れ事業(キャリア教育推進協力)
望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育
 - ① ボランティア受け入れ
 - ② 実習受け入れ
 - ③ トライやるウィーク受け入れ

(2) 子育て支援事業

- ① 園庭開放
- ② 子育てアドバイザー来園
- ③ 絵本の貸し出し

(3) 体験型環境学習事業

- ① 小動物とのふれあい

13. 年間行事

| | |
|-----|----------------------------------|
| 4月 | 入園式 |
| 5月 | 遠足 |
| 6月 | プラネタリウム観賞(5歳児) 個別懇談 |
| 7月 | プール開き |
| 8月 | |
| 9月 | |
| 10月 | ★ 運動会(3・4・5歳児) 芋掘り遠足(3・4・5歳児) |
| 11月 | 遠足 ★ 保育参加(3・4・5歳児) |
| 12月 | |
| 1月 | |
| 2月 | ★ 生活発表会(3・4・5歳児) |
| 3月 | お別れ遠足(3・4・5歳児) ★ 卒園式(3・4・5歳児) |

★印は保護者参加行事

月例行事 お楽しみ会

14. デイリープログラム

| 3歳未満児の一日 | 時刻 | 3歳児以上児の一日 |
|--|---|--|
| 預かり保育（保育短時間利用者の方） 持ち物の整理 コーナー遊びなど好きな遊び | 7:00 | 預かり保育（保育短時間利用者の方） 持ち物の整理 コーナー遊びなど好きな遊び |
| おやつ （0歳児午前睡） 年齢や季節に応じた遊び 食事 昼寝 目覚め おやつ | 9:00 11:00 11:30 12:00 13:00 15:00 | 年齢や季節に応じた遊び 食事 昼寝 目覚め おやつ |
| 外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び 順次降園 預かり保育（保育短時間利用者の方） 延長保育（月曜日から金曜日まで） 夕間食 全員降園（土曜日は18:00降園） | 15:30 17:00 18:00 18:00 19:00 | 外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び順次降園 順次降園 預かり保育（教育標準時間認定利用者の方） 預かり保育（保育短時間利用者の方） 延長保育（月曜日から金曜日まで） 夕間食 全員降園（土曜日は18:00降園） |

15. 保育を提供する日

- (1) 月曜日から土曜日まで。ただし、年末年始（12月29日～1月3日）、祝祭日を除く
- (2) 警報が発令された場合、保育施設は開所するが、状況によっては保育施設からお迎えをお願いする場合があります。家庭保育が可能な方は、協力をお願いします。
- (3) AM7:00時点で特別警報が発令されている場合、子どもの安全を第一に考え、原則として閉園する。AM10:00までに特別警報が解除された場合は、職員の体制等、安全な登園や保育等の確保ができた時点で開園時間をお知らせする。（弁当持参）

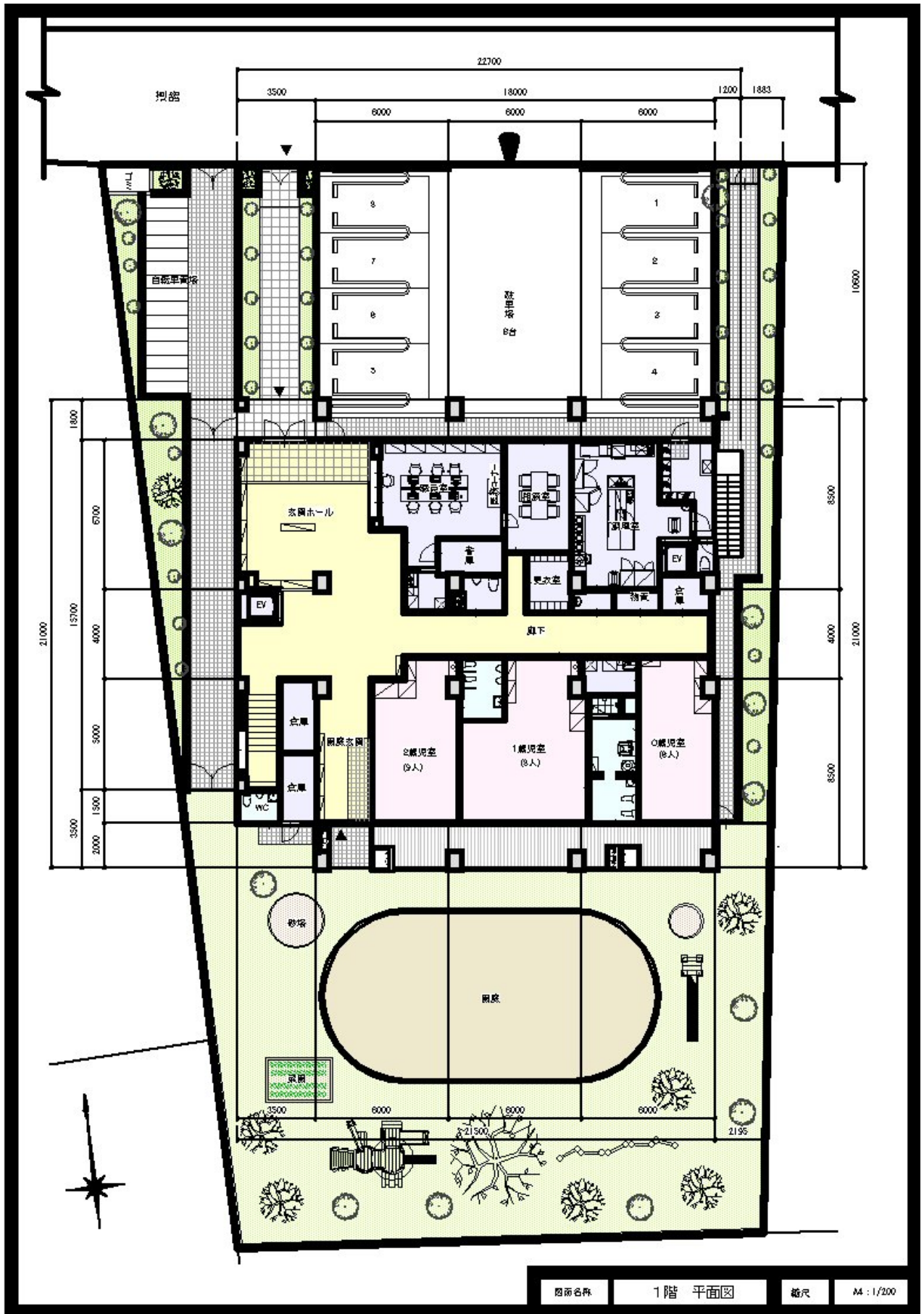
※緊急連絡については、よい子ネットを使用して保護者の方へ一斉メール配信を行う。

16. 保育を提供する時間

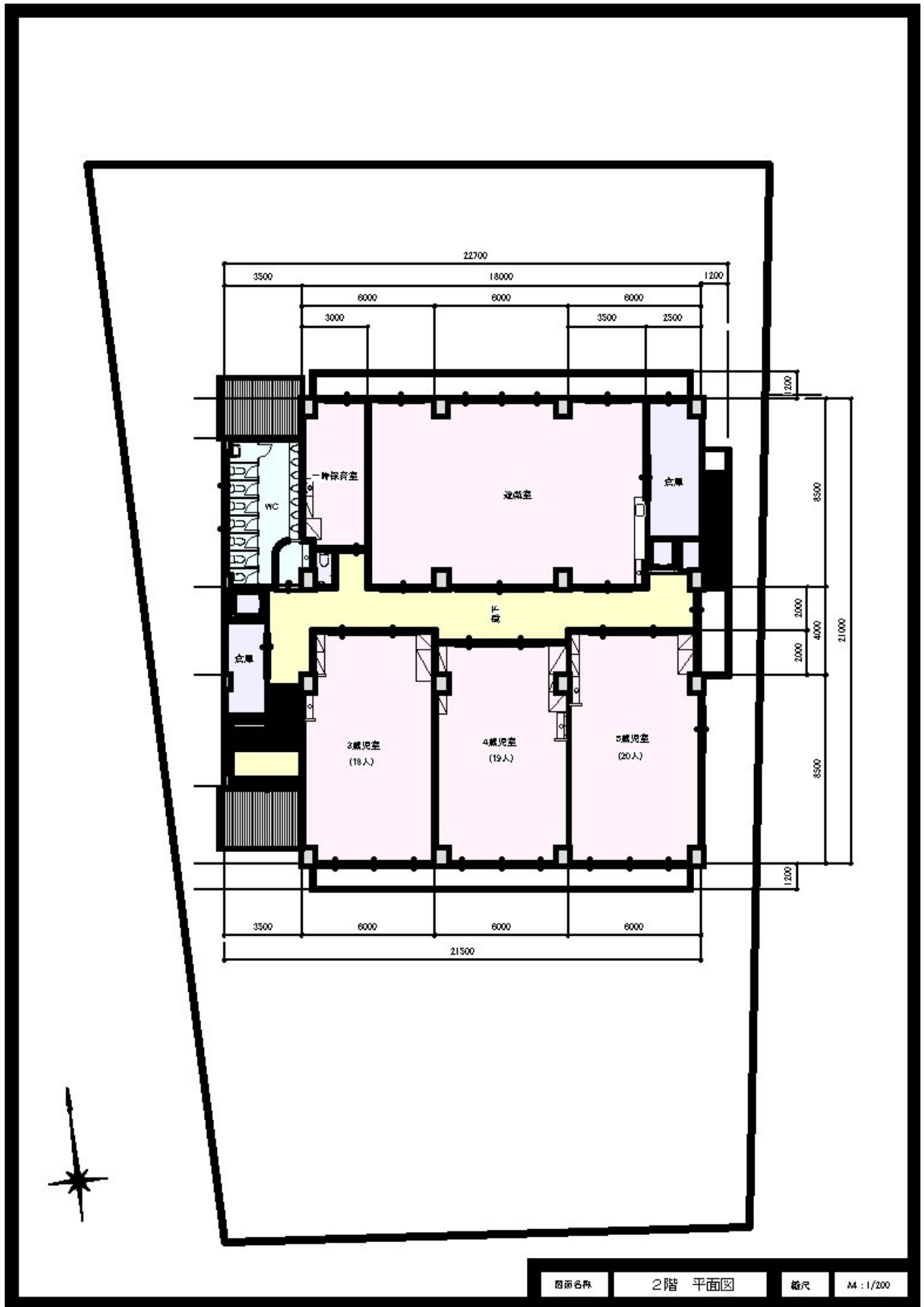
- (1) 保育標準時間認定： 7時00分から18時00分の範囲内で、保護者が保育を必要とする時間
- (2) 保育短時間認定： 9時00分から17時00分の範囲内で、保護者が保育を必要とする時間

17. 園舎配置図

1階



2階



| | | | |
|------|--------|----|------------|
| 図面名称 | 2階 平面図 | 縮尺 | A4 : 1/200 |
|------|--------|----|------------|

18. 居室面積等

- (1) 敷地面積 1,321.81 m²
- (2) 建 物 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- (3) 延べ床面積 826.45m²
- (4) 乳児室・ほふく室 2室 57.95m² 保育室・遊戯室 5室 328.97m²
- (5) その他、調理室、一時保育室、相談室等
- (6) 設備 冷暖房、0, 1, 2歳児室、玄関ホール床暖房 簡易プール
- (7) 園 庭 401.32m²

19. 職員体制計画

- (1) 職種別の職員の数（資格保有者の数）

| 職種 | 勤務形態別人数 | |
|--------------|---------|----------|
| 園長 | 常勤 1名 | 法人施設より異動 |
| 主任保育士 | 常勤 1名 | 法人施設より異動 |
| 保育士 | 常勤 7名 | 法人施設より異動 |
| | 常勤 6名 | 新規採用 |
| 保健師もしくは看護師 | 常勤 1名 | 新規採用 |
| 管理栄養士 | 常勤 1名 | 法人施設より異動 |
| 栄養士 | 常勤 1名 | 法人施設より異動 |
| 管理栄養士もしくは栄養士 | 常勤 1名 | 新規採用 |
| 計 | 19名 | |

- (2) 職員の勤務形態、労働時間

- ① 正規職員の勤務時間帯

・ 7:00～16:00 ・ 8:30～17:30 ・ 9:00～18:00 ・ 10:00～19:00

20. 職務内容

- (1) 園長は当園の保育内容について統括するとともに運営に関する全ての業務を統括する。
- (2) 保育士は保育に従事し、その計画の立案、実施、記録及び家庭連絡などの業務に従事する。
- (3) 管理栄養士及び栄養士は給食業務管理及び栄養指導など、栄養・給食に関する業務に従事する。
- (4) 保健師は園児、職員の健康管理・増進に関する業務に従事し、その計画の立案、実施、記録及び家庭連絡などの業務に従事する。

21. 管理・責任体制

- (1) 法令順守責任者 理事長
- (2) 防火管理者 園長
- (3) 会計責任者 園長

- (4) 出納職員 園長
- (5) 個人情報保護管理者 園長
- (6) 苦情解決責任者 園長
- (7) 苦情受付担当者 園長

20. 利用料等

(1) 利用料負担額

支給認定を受けた市町村が定める利用者負担額の徴収を行う。

(2) その他の費用

- ① 災害共済掛金について (年額) 240円
- ② 写真代 (年3回程度実施) 1枚40円(予定)
 - ・ 園内や遠足などで撮影した写真を購入希望の方に販売する。
- ③ 保育用品
 - ・ 指定購入品目 カラー帽子 800円

21. 嘱託医・嘱託歯科医

(1) 嘱託医及び嘱託歯科医は、乳幼児期の診断治療に当たるとともに、健康管理・保健衛生について助言指導する。

- ・ 嘱託医 河盛 重造 (かわもり小児科 芦屋市竹園町6-22 TEL 0797-34-6321)
- ・ 嘱託歯科医 藤田 顕治 (藤田歯科診療所 芦屋市公光町7-10 芦屋石川ビル201 TEL 25-0646)

22. 健康診断の実施

- (1) 内科健診 (年2回)
- (2) 歯科健診 (年2回)

23. 衛生管理

保育所における感染症対策ガイドライン (厚生労働省:平成24年11月) に基づいた対応を行う。

24. 非常災害時の対策・安全管理

- (1) 避難訓練
 - ・ 非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施 (毎月)
- (2) 不審者対応
 - ・ 出入り口の限定、オートロックによる施錠の実施

- 不審者対応訓練実施（年1回）

(3) AEDの設置

(4) 乳児用呼吸モニターの設置

(5) 救急救命講習の実施（年1回）

(6) 緊急時の避難場所

① 災害直後 はなえみ保育園

② 第2避難場所 芦屋市立精道小学校（精道町8番25号TEL 32-1111）

※ 建物の倒壊がない限り園内に留まる。

※ 出火等により二次災害が発生し、園内にとどまることが危険な場合は第2避難場所へ避難する。

※ 災害の発生状況により、上記避難場所以外へ緊急避難を実施する場合もある。避難場所の連絡など、実際に避難を実施した際の連絡については、よい子ネットを使用して保護者の方へ一斉にメールを配信する。

25. 苦情対応

(1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足度を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性或客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する。

26. 守秘義務及び個人情報の取り扱いに関する事項

(1) 子ども達を保育するために、必要な情報（子どもの誕生日、健康状態、保護者名、住所、電話番号など）を保護者から頂く。これらの情報については、必要な目的以外には使用しない。以下については文章掲載や掲示、販売などを行うことがある。

(1) 市町村が認定した世帯所得に基づく毎月の基本保育料の金額の情報は、給付事務に必要な範囲に限って利用する。

(2) 緊急の場合、勤務先に保育園名を告げ、電話で呼び出しを行う。（緊急連絡先に携帯電話などを指定されている場合でも、つながりにくい時は、勤務先に連絡する。）

(3) 毎月のおたよりに、生まれ月の子ども達を紹介する。

(4) 子ども達の保育園での活動の様子を写真撮影し、それらを保護者が見やすい場所に掲示して注文を取る。

(5) 保育園の活動を撮影した写真や映像に、子ども達と保護者や職員と一緒に写っている場合、対象となる人に写真や映像を配布もしくは販売する場合がある。

(6) 緊急時には、関係機関（病院、保健所、警察など）へ該当する子どもの氏名、生年月日、住所、電話番号などを知らせる。

(7) 子ども達を連携園等に送り出すにあたって、子どもの育ちが連続して受け継がれていくために、引き継ぎの資料を連携園等に送付する。

27. 送迎について

(1) 朝7:00~10:00及び夕方16:00~19:00の間、保育所駐車場に交通安全の立当番を配置し、園児及び保護者、通行人の安全確保及び保育所周辺道路の交通整理に努める。

- (2) 自動車による送迎は許可制とし、駐車許可証を掲示する車のみ駐車可能とする。

29. 情報公開

- (1) ホームページの開設などにより、実施されているサービス内容や経営内容等の情報について、透明性の確保に努める。

30. 研修計画

保育士は、子どもの保育や家庭での子育ての支援に関する専門職として、保育所保育の中核的な役割を担う保育士に求められる主要な知識及び技術としては、以下が求められる。

- (1) これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術
- (2) 子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術
- (3) 保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術
- (4) 子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術
- (5) 子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術
- (6) 保護者等への相談、助言に関する知識及び技術

保育士等は、これらの専門的な知識及び技術を、状況に応じた判断の下、適切かつ柔軟に用いながら、子どもの保育と保護者への支援を行うことが求められる。その際、これらの知識や技術及び判断は、子どもの最善の利益を尊重することをはじめとした児童福祉の理念に基づく倫理観に裏付けられたものでなくてはならない。以上の事から平成30年度は下記の研修を実施（参加）する。

① 具体的研修

- ・兵庫県もしくは全国認定こども園園長等研修（対象：園長等）
- ・兵庫県もしくは認定こども園主幹保育教諭等研修（対象：主任・副主任保育士等）
- ・兵庫県保育士等キャリアアップ研修
 - マネジメント研修（対象：副主任保育士等）
 - 専門分野別研修（対象：副主保育士・専門リーダー・職務分野リーダー等）
 - ◇ 乳児保育
 - ◇ 幼児教育
 - ◇ 障害児保育
 - ◇ 食育・アレルギー対応
 - ◇ 保健衛生・安全対策
 - ◇ 保護者支援・子育て支援
- ・保育実践研修（新任保育士等）
- ・園内研修 講師：矢木 昌子 氏（毎月実施 対象：保育士等）

・その他（随時）

31. 職員会議

(1) 定例会議（毎月）

32. 委員会活動

(1) 乳児保育委員会

乳児保育に関する理解を深め、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた保育を行う力を養い、他の保育士等に乳児保育に関する適切な助言及び指導を行う。

(2) 幼児教育委員会

幼児教育に関する理解を深め、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた幼児教育を行う力を養い、他の保育士等に幼児教育に関する適切な助言及び指導を行う。

(3) 障害児保育委員会

障害児保育に関する理解を深め、適切な障害児保育を計画し、個々の子どもの発達の状態に応じた障害児保育を行う力を養い、他の保育士等に障害児保育に関する適切な助言及び指導を行う。

(4) 食育・アレルギー対応委員会

食育及びアレルギー対応に関する理解を深め、適切に食育計画の作成と活用及びアレルギー対応ができる力を養うとともに他の保育士等に食育・アレルギー対応に関する適切な助言及び指導を行う。

(5) 保健衛生・安全対策環境委員会

保健衛生及び安全対策に関する理解を深め、適切に保健計画の作成と活用と安全対策に関する適切な対策を講じることができる力を養うとともに他の保育士等に保健衛生・適切な助言及び指導を行う。

(6) 保護者支援・子育て支援委員会

保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、適切な支援を行うことができる力を養い、他の保育士等に保護者支援・子育て支援に関する適切な助言及び指導を行う。

33. 福利厚生

(1) 職員健康診断（年1回）

(2) 細菌検査（毎月）

(3) インフルエンザ予防接種（11月）

(4) 福祉医療機構退職共済加入

(5) 福利厚生センター（ソウェルクラブ）加入

(6) その他会議等で職員からの要望を聞き、要望を反映させていく

※本計画書の取り扱いかた

本計画書について外部への持ち出しを固く禁ずる。